





八雲抄序



夫和譚者起自八雲出雲之古風廣平文
武之聖武之望朝言泉流遠調林道鮮其降
已來貴賤然々道俗推々然而不學素者
丹鳥之憲慈諫之干一字々向若親玉副車
知驟龍之珠不視上邦誰歟英雄之詞所
以依代之記文付家之髓髓神抄一篇先達
口傳故人教誡雖可顧問依部類不廣遺漏
誠多少一正義才二作法才之三校集才四言
語才五名才六用意雖非六義之校錦

且為一身之吸金鏡也錄為六卷者曰八雲卅帶
置絳席側須備瘵忘而已

八雲卅帶卷第一

正義部

六義	席代	短方	反方
<small>或号 長奇</small>	諸方	旋頭	細文
空心不着	誹錯	巧句	將冠折句
將冠	物名	贈答	異折
連款	八病	七病	
詩合	詩會	學書	

あはれなるをよきとて思ふものなりわかし
可葉短方と然し思ふはけりぬはけりぬはけり
なりと多敷代にわし思ふはけりぬはけりぬ
ぬしにわし思ふはけりぬはけりぬはけりぬ
ふの川のさつとけりぬはけりぬはけりぬは

短方

都明天皇天皇書具山望國の時御察

あはれなるをよきとて思ふものなりわかし
可葉短方と然し思ふはけりぬはけりぬはけり
なりと多敷代にわし思ふはけりぬはけりぬ
ぬしにわし思ふはけりぬはけりぬはけりぬ
ふの川のさつとけりぬはけりぬはけりぬは

あはれなるをよきとて思ふものなりわかし

檢税使大伴御食統波と時作

あはれなるをよきとて思ふものなりわかし
可葉短方と然し思ふはけりぬはけりぬはけり
なりと多敷代にわし思ふはけりぬはけりぬ
ぬしにわし思ふはけりぬはけりぬはけりぬ
ふの川のさつとけりぬはけりぬはけりぬは

あはれなるをよきとて思ふものなりわかし
可葉短方と然し思ふはけりぬはけりぬはけり
なりと多敷代にわし思ふはけりぬはけりぬ
ぬしにわし思ふはけりぬはけりぬはけりぬ
ふの川のさつとけりぬはけりぬはけりぬは

博及躬恒之長方なり也

子や母の 神無月とや 一節あり 思ふとあ
くの時 御来と云ふ 母と云ふの 言の母の
まゝなり けしと云ふ なるゆゑ 玉れと云
えらしし あれ観て 我なり けしと云
庭の雪 けしと云ふ 冬草の けしと云
白雪 けしと云ふ けしと云ふ けしと云
そくしと云ふ

此方、短方、不調、調、安、散、事、甚、以、難、知、也
又、方、方、也、む、と、為、不、此、外、存、殊、長、方、也、又

殊勝也、其、故、お、急、あ、方、不、足、後、折、述
懐、方、も、是、不、も、不、及、と、其、其、く、志、事、成
可、持、南、極、而、依、不、急、あ、方、不、入、く、抑、種、去
方、短、方、事、有、あ、流、演、成、并、孫、昨、式、の、以、く
梅、長、款、其、撰、式、并、新、撰、髓、體、の、以、く、梅
短、方、普、通、方、三、十、一、字、或、又、謂、長、方、百
葉、又、以、三、十、一、字、謂、短、方、也

又、万、葉、中、字、句、と、三、派、あり、何、と、何、り、但、非
普、通、事、所、謂、寫、れ、い、い、の、中、れ、部、云、と
り、め、あり、也、後、折、云、短、方、乃、詠、歌、方、と

是にりつたものもいふにあらん海に一と揚子
人なり一と何なるも一と不知一と通彼らふ
とんえぬらあつたものもいふにあらん海に
云入詠借方あつたものもいふにあらん海に
誠如云何物信不知のこころもいふにあらん
非可定又千載集のこころあり大いふにあらん
のりつた海にんらるる推さし海にんらるる其揚
知事なり一と拾遺千載集のこころあり
物にのりつたものもいふにあらん海に
やあらん但是ともいふにあらん海に

可思古今也或況曰詠借有揚

- 一 俳借
- 二 詠借
- 三 俳詠
- 四 滑稽
- 五 諧謔
- 六 謎字
- 七 市戯
- 八 鄙談
- 九 野言
- 一〇 細末弁

折句

毎句上物みよと一と字のけしきもいふにあらん
一と交らうとまねらうとまねらうとまねらう
一とらうとらうとらうとらうとらうとらう
一とらうとらうとらうとらうとらうとらう
一とらうとらうとらうとらうとらうとらう
一とらうとらうとらうとらうとらうとらう

物
~~~~~

昔

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

折句昔

~~~~~

~~~~~





くわんせいのふりかへり

いりくわんせいのふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

あつたふりかへり

他國より昔はありしものなり  
ぬきしにむらさきもあはれし  
君にやうにむらさきもあはれし  
ぬきし古今の教訓や又あはれし  
りふあはれしむらさきもあはれし  
とらむやあはれしむらさきもあはれし  
あはれしむらさきもあはれし  
らむらさきもあはれしむらさきもあはれし  
くはれしむらさきもあはれし  
あはれしむらさきもあはれし

東門院といふはむらさきもあはれし  
法蔵寺入道

あはれしむらさきもあはれし  
上東門院

あはれしむらさきもあはれし  
あはれしむらさきもあはれし



異字

あはれなるものぞとて 雑字とて  
もなるよりのことなるものぞとて  
しも蘇や毎回の事なること

あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて

あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて  
あはれなるものぞとて 雑字とて

連歌

昔も五十韻百韻にほくらふりあはれ  
上句あはれ下句あはれとていかに  
いよあはれとていかに今もほくら



る申詰りし事也賤物なるも申詰  
りし事一を万葉集の八巻よりと衆持  
卿付く

此の事の御持白

衆持白

る事ひしひしりたる事  
是連歌根源也其故或先下故に付上又  
普通は是より多し一は付の事  
あはれなる也或人  
いふ事一は事なる事

とてつと宗貞朝臣

あはれなる事

又天曆

はの御事なる事

源野内侍小蘇余婦

あはれなる事

是あの上の事也非約り事一而流れる  
多連く是代に如法事也古に是こと  
を言ふ事一は事なる事  
も繁事なる事一は事なる事

禁割る事及末代む可ぬ事也

一 穀の抗高座可然人如く吾何人ま  
らす或又時執事と連句入類と連評穀  
句の事此句むと然人ま事也

一 穀句の逆りいふ事大なる事ある事  
かゝる事ある事也  
秋の風なる事也

一 物之句の中へ可取賦物也あ  
る事也  
る事也

はめたる事也

一 三句の事よの病もはる事  
あも同事へ用意も  
海へはる事  
評よの事  
事也

一 上の事よの事  
あも同事へ用意も  
海へはる事  
評よの事  
事也

事々(一) 事(二) 事(三) 事(四) 事(五) 事(六) 事(七) 事(八) 事(九) 事(十)  
 事(十一) 事(十二) 事(十三) 事(十四) 事(十五) 事(十六) 事(十七) 事(十八) 事(十九) 事(二十)  
 事(二十一) 事(二十二) 事(二十三) 事(二十四) 事(二十五) 事(二十六) 事(二十七) 事(二十八) 事(二十九) 事(三十)  
 事(三十一) 事(三十二) 事(三十三) 事(三十四) 事(三十五) 事(三十六) 事(三十七) 事(三十八) 事(三十九) 事(四十)

一 是(一) 下(二) 白(三) 事(四) 事(五) 事(六) 事(七) 事(八) 事(九) 事(十)  
 事(十一) 事(十二) 事(十三) 事(十四) 事(十五) 事(十六) 事(十七) 事(十八) 事(十九) 事(二十)  
 事(二十一) 事(二十二) 事(二十三) 事(二十四) 事(二十五) 事(二十六) 事(二十七) 事(二十八) 事(二十九) 事(三十)

一 海(一) 之(二) 連(三) 教(四) 事(五) 事(六) 事(七) 事(八) 事(九) 事(十)  
 事(十一) 事(十二) 事(十三) 事(十四) 事(十五) 事(十六) 事(十七) 事(十八) 事(十九) 事(二十)  
 事(二十一) 事(二十二) 事(二十三) 事(二十四) 事(二十五) 事(二十六) 事(二十七) 事(二十八) 事(二十九) 事(三十)

一 事(一) 事(二) 事(三) 事(四) 事(五) 事(六) 事(七) 事(八) 事(九) 事(十)  
 事(十一) 事(十二) 事(十三) 事(十四) 事(十五) 事(十六) 事(十七) 事(十八) 事(十九) 事(二十)  
 事(二十一) 事(二十二) 事(二十三) 事(二十四) 事(二十五) 事(二十六) 事(二十七) 事(二十八) 事(二十九) 事(三十)

傍の躰物も

いふ

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた





ていふやうにいひては  
くはれぬしやうに  
いひてはあつた  
いひてはつた  
いひてはつた

いひてはつた

いひてはつた

いひてはつた

いひてはつた

いひてはつた

いひてはつた

いひてはつた  
いひてはつた  
いひてはつた  
いひてはつた

八病 書撰式

一 同忌病 或等相禁厭病

是の事一に二の事一はあつた  
不謂く 遍昭

いひてはつた

いひてはつた

躬恆

いづらにのろふにやいづらにのろふにや  
あまのついでよむのふさふさむさむさむ

介ら二河ららむに二河ららむに  
らす今も撰集より多く後成古来風流同  
八病中是亦可去其妙いひつとありて  
非そとともきみゆりぬあすらふてる月  
の在りぬ月なるとつた後扱為病但不可  
病矣

二礼思病

或者和歌述病

是に詞優而るとりよりのなり

あいまのめをよこの病にまふたりて  
あまのついでよむのふさふさむさむさむ  
いあ一の病中は清よりのありに  
あまのついでよむのふさふさむさむさむ

あまのついでよむのふさふさむさむさむ

あまのついでよむのふさふさむさむさむ

と桐蝶病

或者和平歌病

是に下句好て未句疎也

あすらすしてよむのふさふさむさむさむ



とくううううううううううう  
なれ目のくらゐううううううう  
うううううううううううう  
これ又下あふ人ううう腰折皆以如昔上  
たう疎う多是下下すうううう

中渚鳴病 或号和上尾病

是偏う是うひうまうう病不常なり  
人うたううう病のあううううう  
まううううううううううう  
ううううううううううううう

うううううううううううう  
うううううううううううう  
うううううううううううう

五菟橋病 或号和翅語病

是とわうううううううううう  
うううううううううううう  
ううううの枝と菟とたうう  
これ又た道ん事うううううう

六菟楓病 或号和齧齧病

是の篇統一者上う下う用也其撰式一首

中不義思詠也

七中飽病

或和浩膠病

是は三年五十六字ありたり。

ゆゑあゝ河もさきもさきの上  
らりて志ぬるゝあゝゝゝ  
有と海に浪もうたふとらゝあゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

是はよすゝんゝ有ゝゝゝ詠頭ありゝあり  
ゝゝゝゝ

八故悔病

或和解鐘病或混年ゝ詠音韻不踏ゝ

是無風情故悔也後換向もととあゝあゝゝ  
みゝ故よゝ死視とあゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝ

官病

或撰式

一岸樹病

やゝ一白始や二白始也後換者い病ゝ可まゝゝゝ

夏ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
あゝゝゝ下るあゝゝゝゝゝ  
あゝゝの河あゝゝゝ浪あゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



麻子のほろほろと糸のたぐひ  
是にほろほろと糸のたぐひ  
向ふまゝとほろほろ

七病 瀆成式

一 頭尾病

新白紙 青二白紙

雲のうらみ針ての川浪もらう  
みこしとゆふのよふに  
秋の田れうらみの廣れゆふ  
我衣もし露のよふ

雲のうらみの針ての川浪のよふ

いあさいれがのよふ

二 胸尾病

新白紙 青二白紙

なまのうらみ針ての川浪もらう  
秋の田れうらみの廣れゆふ  
とよのうらみ針ての川浪もらう  
なまのうらみ針ての川浪もらう

三 胸尾病

他白紙 青二白紙

山風のうらみ針ての川浪もらう  
らうらうらうらうらうらうらう



移してはつりてはつりたるものなり

こころの病のあはれきこころのまじり上りぬ  
字に顔と下句末の字や後れい病をわり  
たる事とつりてはつりてはつりてはつり

七遍身病

二顔中不顔二字以上と深の字有也新撰體體禁

常夏ぬよつりてはつりてはつりてはつり

あつりてはつりてはつりてはつりてはつり

あつりてはつりてはつりてはつりてはつり

あつりてはつりてはつりてはつりてはつり

あつりてはつりてはつりてはつりてはつり

有る早う鶴勝時代不禁止上た多

又新撰體體禁白くくくくくくくくくく

あつりてはつりてはつりてはつりてはつり

あつりてはつりてはつりてはつりてはつり

あつりてはつりてはつりてはつりてはつり

あつりてはつりてはつりてはつりてはつり

あつりてはつりてはつりてはつりてはつり

あつりてはつりてはつりてはつりてはつり

又新撰體體禁あ

以上或は禁や世か古人禁事と

一 楽一のあま一はあの一はあ一

一のいのもあまみはのあ

秋風は鼓とあま一とてくらぬひし

あまはれしあま一とあま一

あまはれしあま一とあま一

あま始字のあま一とあま一

あま一とあま一とあま一とあま一

あま一とあま一とあま一とあま一

あま一とあま一とあま一とあま一

と禁や

一あま一とあま一とあま一とあま一

あま一とあま一とあま一とあま一

あま一とあま一とあま一とあま一

あま一とあま一とあま一とあま一

あま一とあま一とあま一とあま一

任者あま一とあま一とあま一とあま一

一 決七字のあま一とあま一とあま一とあま一

あま一とあま一とあま一とあま一

あま一とあま一とあま一とあま一

己八病可集己下集との皆以有不可勝  
斗進代又各集の上古の殊同事也  
才一曰公病許不集事也北方合々外志  
代撰集不淺進年と雖もまゝに入集  
不為難く家澄とては如何なるもの  
差のといふ其の字に也疾直物不  
神より露やといひてぬえぬのといふ  
物字二不よりいやくぬる進也と多し抑  
句ぬるいぬる不為病而後執抄出病例  
むるの公より更し今古不存とあり隔句

同事ぬありと為病なり 後成回凡可集  
己下方の同りといふ此詠而ありといふ阿  
くといひいやくも一部に病のといふと  
非病の中よ陳女事古人の所為るぬと  
むる由波と唯病はたつとよりありと誠  
上古事 如物也

評合子細 難事也

一書た不可然人得く但隨題能因若若 他人 家志  
例也一書た不可負先例負も勿  
為持右勝り弘藏殿書御合判 義志 丸相換



侍姫乳母又清姓寺用白家各合丸後取負  
右源定信之作云旁不可為例之小野  
文大且各合有例之非普通事一押云  
沈事一古來不及丸右之句並わらひ若  
惡不為病わらひ詔也上右中右わらひ  
構之も各之謂之丸一押也後取も不為病  
之伸實又同

去日山若舟の相へさるるも人  
子とやれらるるも海のよと人  
並句不為難

一同心病ハ為難同事一の二取有也満句  
其外乱思爛蝶滴鳴苑橋老楓故梅亦病ハ  
唯之海くあり河さくも不為難中飽も  
不為難也又岸樹風端浪船落苑已上頭尾  
胸尾時尾磨子控風全不為病款款上下句  
並半頭 每句同字三之今之何り  
雖不為病非寂上一首同字多しと或構  
病但今古流例也牛頭痛ハ天徳各合中  
務部北強難とてわ持遍身病事康實  
母幼女同持一之補親云同字三之いりて人

わりのふふふ不可出しく然而能宣實和合  
詠書れらる道の志るふんふふふふふ  
木の下風と鶴膝病や惣勿論事や但五  
六と雖非病む所悪也又終し字非沙法  
限彼成回合ふふ同字四何らふふふふ  
つふふ有ぬ字定わりの答と事

一 税方の勝也注所の各と兼了ら又同字東交  
合合二書た其日ふ右セリ是持也永兼  
年合合二書其日ふふふふふふふふ  
条用白云いふふふふふふふふふふ

定字注用自有其心氣非判若非合今  
以斟酌稱く税方負事一長元一長家  
の及ぬ強と強ふふふふふふふふふ  
たふふふふふふふふふふふふふふ  
負年又強和二ふ合強ふふ合強  
負年其ふふふふふふふふふふ  
細也

一 合合ふふ遠國ふふ強ふふふ強  
近代多上右も有例是あふふふふ  
但同ふふふふふふ可用念月野ふ

とせしむるは後れとみよとてしよみ基  
後とししなるの月とありしうふ合ふ  
とこも無難只可依事一兼磨とていひの  
中山少くもふ所とていひし難と有る  
謂野文の合のくくぬ山田く又徳大寺  
た大臣頭よまれ和山とありし取事難  
し根合の何れもの証不可違今自事  
む難也唯て事なるとも皆縁く習也  
一三月のよの光とていふものく後成難  
く誠無終初也

一曰ん可去く不謂仔細大捕く小夜少り  
て暗のそめては存るものく風やよこむ  
那らんたといふあり定文の合みぬ  
人の意くいふとあがけふ難とてん  
羨しよのうとていふく不為病とて  
是れも病介りといふく或は言と事と  
て不為病可棄く初難とていふく曰ん同  
病を病也長えん合能同く何れ依病不  
指南亭の子夜の合是則くみらとてあり  
てよめぬとていふく為難

一 同事と云ふゆゑに或は憐れむと憐れむを常集  
曆考昔靈錄と稱せ難は但神伝記非病と  
能宣はつゝの書しぬとねとけけけの書り  
とつゝと故代よ神伝録病と能く可思  
惟事と云

一 岸樹病可去と云ふた大将房合後京後成  
判神の書しぬと云ふゆゑに神難定家定て  
魚日令見と云ふ非深答と云

一 同事と云ふゆゑに或は憐れむと憐れむを常集  
曆考昔靈錄と稱せ難は但神伝記非病と  
能宣はつゝの書しぬとねとけけけの書り  
とつゝと故代よ神伝録病と能く可思  
惟事と云

志しぬ是は房合と云ふ神伝後拾遺同  
答難と云ふけけと云ふと云ふはと云ふ  
異なり或は難或不難房合と云ふ不難と  
も有又難事とも有撰集と云ふ皆多以入と云  
つゝと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと  
何と云ふけけの難と云ふと云ふと云ふ  
これ計と云ふと云ふ陽成房合と云ふ通後  
月と云ふと云ふと云ふと云ふ秋の夜と  
なると云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

勝平是益と云ふ也

一 此もこのあかゆり難いことば、八重山嶽の  
けあんといつて小野交うて八重山嶽にて  
いあるふすすと云如世難也又長元寺合  
山の海と介りて兼曆運房とて海志  
苗代ありありといつて是あはれ事一を  
如世事不可勝計を可難く級難  
有らざるは事一可為難を

一 此もこのあかゆり難いことば、八重山嶽の  
けあんといつて小野交うて八重山嶽にて  
いあるふすすと云如世難也又長元寺合  
山の海と介りて兼曆運房とて海志  
苗代ありありといつて是あはれ事一を  
如世事不可勝計を可難く級難  
有らざるは事一可為難を

うみゆりれ社の極苑をそむく風の多やれ  
こゆり思去年捨今年と思去年と  
不捨こゆり非難を長元とて此入は  
川ゆり難うてもこゆり根合もゆり  
いゆり頼通孝ふも也運房北難とて誠法  
外事也世介仲交難露結竹り事也  
兼昌とてとて後頼難といふ長元  
赤深とてなると同己上る中難あり  
愛のまことあく虚言とてこの事一を  
を謂ふ作は也故撰りてゆりなきて

秋とけつあし又ねときき集れ好くつまけり  
乍らつらういふては京氣也む不為難也  
一因事一以親うらつとありむ可為病良年  
与礼年京極に是所合勝介礼と介留處  
子女御所合中務持 良志と京新實和  
合唯成爲持或不爲病とて是あ病也  
唯く少く山と事亭子子院所合勅判山家海  
ぬりぬりいふ後損基後大謂病法補不爲  
病也とる根回事也或不病とていふら  
病也唯く少く陽院所合通後とてい

屋て山の白雲川もまじりてありいふ  
ぬりぬりいふ又因所合取説物立文字と山  
よこといいてまらのぬりぬりいふ  
強難共持也白と香臥房所合勝獨与人法  
性寺用白所合の時昌くぬりぬりいふ  
らうらうや白菊のつゆとていふ人よみと  
らんといふ後取日結与人未事一切基後不  
難仲實為難今案う隨事一是て非病  
獨といふ人よあはらぬ也古今れいとい  
ぬりぬりいふ病のつよよわぬ人よぬりぬり

とありきりつら病也又西征法師ありし  
よなりむらんのあまのこころしつら月と  
らりそみひりきしそ有難負平但非深答  
を月と年月と月日吉ふ僧正なり月と  
つきの成ぬらん法華の月のみと  
なりしと同初のみつら可為病を  
教と書と病也と東院大尊命の補親  
誦く教と書と貞文家命合躬恒為持代  
と年是と皆為病也と平海命合勝年  
とつらとむらとまらとあつら池のあり

よらつらとむらとまらとあつら池のあり  
なりつらとあつらとまらとむらとあつら  
病也このつら常にあり又とゆぬまの  
苦風よゆいつらとをぬいこの病を  
而天徳勝平頼宗也たて命れりつら  
つらつらとつらとつらとつら病也  
改めつらとつらとつらとつら不病道伝  
奇と後頼為恒病道後曰難有病奇合  
命不勝被定持例  
わらつらとつらとつらとつら病つら

ぬるい微子有合勝極のりきつういさだ  
なけりも歎そのらふひさかたあしとふ  
又寛和 胎 長結

いさかぬはあぬんといさか  
八重うらふもつら極しゆきれ歌  
又福あつらの夏もつらなまはれ極  
つやもつらなまはれつらなま

一 風を来りしと六帖  
木枯の音きく嬉しきあしな  
いさか指ぬえすゆか風

是の例をよみて病やむ可難

一 同字の鄙詞一首中一取しゆと二取  
と取難く返答曰わらひとをなめ  
在一首と難く

一言言病よわらひと難く甚後中  
云は夜のもいさかといさか同也  
とらり疾可然大炊御門右大臣奇神  
の志はといさかといさかの歌いさか  
り甚後難く是らも同なりと云  
一 詠古奇わさかをなめと云らるいさか



ゆも近代を法事一ツを忠澄二句古句  
なり北強難と勝平二句うしは  
ありと勝一

一得元源為元知和集源集事一寛和  
永集之曆再之陽元各令之有之皆不  
難月又同之有例知意各意字更之非  
難兼曆再都芳門院根合有は法同判  
者有對政之惣は法外之也天徳朝忠  
人との人との事一前例を近代の意  
字ありとも一和一慈和各合時時を統

理はともはしはゆりてなはけとありとも  
ありぬあやみのおとぬうすらん世うぬ  
時るとのしゆとも勝平の事の對して  
准くゆして古今以下意のつしぬ意の  
有不可勝斗更之非難

一税子源集元事一家成家各令一其後  
の松りりぬ長壽無餘集元不税以延終  
為税なり一柳苑山院各令一源正文の  
可代もつてつてぬなるゆな事ゆ  
まの事ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一 郭公對末句單一或雖一之陽成句合  
既還句末同九句同之於信判右頁  
根今雅後又負平但句合有二首  
一 詠述懷不雅實和郭山清製述代夕  
一 詠亦不普通實和惟必寫守之詠亦一但  
是也非惡款

あつらひはるはる人の憂い  
お返はるはるあつらひ  
憂いしるはるあつらひ  
し憂いしるはるあつらひ

一 侵傍天德實和已後句但可依事暮去  
と貌をくは若常郭公末物不可信也  
一 詠請句實平句又句合真風棟梁在古今  
但不可信

一 建不遇惡二為常一建後亦不違也而乍  
對面無實事一  
是北院也但係何物  
諸句無郭公取付筑波人建故不違由也  
咒

評合句如屏風障子句同  
殊可去林忌非之奇合句雖不答

能く可思堆君御軍者非可依奇禁  
忘但如然しし為恠君也中し上も中に失し  
わりの也志事しつ於禁中白雲のりりめりさ  
んえけらるるもひよるやあまふらん  
よみく被難躬恒けしも非吉事也後  
北抄曰堀川院以中長志出題 後後部 有下  
賢子侍所孝言出題 月誓 又吉事堀川  
院中文苑合亮仲實らなほよれみよの  
よりの皆有失如吉事今古少を  
同抄云根合周防内侍りわら志しこもえん

きつり介らんとよせらるる有事しこ  
して恠方よの如然不能得共自然事也して  
しつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
わり弘慶殿女御の方合永成法師の志  
つ代ふ来れ松もつりつりつりつりつりつり  
以介れつりあまして無沙法よて金葉よと  
入り如吉事しつ能く可思也あいにらむ  
まの如恠異事也無何あまふ又無何あり  
つりつりつりつりつりつりつりつりつり  
事也



あはれなる心にて  
行はれし事ども  
世にあらば  
心もたれど  
あはれなる心にて  
行はれし事ども  
世にあらば  
心もたれど  
あはれなる心にて  
行はれし事ども  
世にあらば  
心もたれど  
あはれなる心にて  
行はれし事ども  
世にあらば  
心もたれど

あはれなる心にて  
行はれし事ども  
世にあらば  
心もたれど  
あはれなる心にて  
行はれし事ども  
世にあらば  
心もたれど  
あはれなる心にて  
行はれし事ども  
世にあらば  
心もたれど  
あはれなる心にて  
行はれし事ども  
世にあらば  
心もたれど  
あはれなる心にて  
行はれし事ども  
世にあらば  
心もたれど

のみ一死するも先例難く但可随  
事一もこれ難いにしてはしるす  
ては海にらんたう一死夜をい  
くはうす美鷹を命よりりのま  
ゆえ御一ぬん神信林あく北原各を  
可依橋や酒川中交記契延年上  
お家らとせりてありてらん  
朝光あつて一死はよめん  
つとてと云う河一も也  
るは林あく清輔朝臣  
例捨遺をたて

源廣信  
朝臣

んあひも河一も林ぬ  
年事也む可忘る但下  
とらとてあつてなり  
忌を但ありとよめん  
将似下調をり云忠  
いん括武節く又可  
はつとて 志しし  
そのあ さいのり  
よの又あはるし  
とよのすなふ



とらいつまゝありし家と好くの扱ふこと  
よきものゝ氣と云いやはかりし所  
らよと云ふものゝ人々もさうと云  
てあらぬものゝ落部二定ありぬ  
るや能くたのしみく一に其の物  
と云ふこと物と云ふこと或難く  
れ方と其後難くす所也は其の  
事也

學の書

可葉集以下代々勅撰子細互他卷

号菅家可葉集菅家撰也二卷也  
席曰寛平五載秋九月廿五日下午卷延  
壽十三年八月廿一日之是他人撰也或  
祝源相云祝之如何

樹下集二十卷 多々法眼源實撰  
有姓名席

去々集一卷 能因撰  
有席 山依集 撰者不知

良選打図 隆治之巻集

御瀬十巻抄 良玉集十巻 引仲菅依撰  
大治元年朝金葉集

拾遺古今廿巻 教長有席  
永範の宛集

續詞苑集廿巻 有席長史院可為勅撰二条院崩仰  
不逐く



孔昭清師之卷抄 号今撰集

如世集不可勝計以所撰者不詳又古  
人不用或又撰者九道抄多不謂念而  
入道打圖

后集子 指末世法家 資仲及拾遺 四卷不具

五葉集古卷 尾張持守橋盛志撰

有兩序教之修々 後冷 後之 白河 孫川 古羽 五代等之  
又号山階集撰南都 句稱月次集抄

賀茂房 主保不為

如世物近年又少皆不能用之

抄地等

可葉集抄 五卷抄曾々撰之  
可卷抄不知撰之

類聚評林 山上松良撰有平寺地之  
直要記也

新撰字卷 曾々 古今後撰但不考々  
古今分之二百二十首

金玉集一卷 云何撰 拾遺抄十卷 拾遺因昔年首  
花山或云何

六帖 曾々 或云明親王 深意秘抄一卷 云何撰

龜鏡抄 任世 宝山合通十卷 和漢朗詠抄二卷 云何

新撰朗詠抄二卷 兼後 前五十番 云何

後五十番 通雅或定札 三十六人撰 云何

續新撰 通後撰 拾遺内三百二十首

明月抄 孔孝子 類聚抄五十卷 仲實  
有序

悅月抄 甚俊

相撲立 日記詩奇  
二十卷

野林百廿卷

信補方合亦卷  
會字卷  
百首字卷  
雜字卷

諸家部類

撰之不知  
知是院評有之

五代名取

花鳥

如世物遠近不可勝計然而普通所用

注之小能因野林抄一卷 麗苑抄

蓮露抄之卷

葉門集

臥眠私記  
友介僧信

山戶卷尾回集

古抄拾抄

白集十卷

德集寺非族地大江廣治上科抄二卷

類聚古集古卷

教證抄近日又誤之未入

官家式

歌經標式

系編藤  
源成奉勅

書撰作式

書撰奉勅

孫氏式

有席

石見人女式

是安部信行  
式日物也

五家髓髓

新撰髓髓

云云

能因方抄

後札各各抄

濟語抄

仲實

奧儀抄之卷

信補

小介白女口傳證源口傳以下誤之在範魚  
童蒙抄法補初學一字後成古來也

抑亦老皆以明鏡也  
又忠孝 道出十所 云得九亦未抄物  
不可勝計也

物語

伊勢上下 大和上下 源氏五十四帖  
竹外物語非強寂寂

雜

家之集 家之詩合 自禁中  
出法家 雜之而之

私記 凡平云誰人記不可為

壺子九帖 法補 現存集 教札  
拾遺現存集 愚齋 弁苑抄 後惠

現存集已下三箇度金撰集兼門集以  
前也而不被書入之案古以不審了也

三九代集 後惠 花月集 仰光

拾遺弁苑抄 治承元年分月  
校處之時光 言集 廣言

海平古良 師成  
亞相 豐茂落 誦德云

廬主 語基法師 六帖 及中書五  
六書家

宇治大納言 隆四 淡松中納言

狭衣大将

山陰中納言

有馬王子

海人三子

孔雀御子

磯破

宇治掾

任吉

世継

忠祿

清少納言抄草子

和方九品論義

諸國分抄

雜後拾遺

越士日記

河川水日記

伯母口傳

新可六人

六之撰

苑辭

卯苑辭

山本髓齋

吾若抄

後葉集

破詞苑集  
長門前司為治

菟尾記

雜後葉集之傳  
傳

今撰集

傳  
教仲教子

續現存

結盛云云

難介撰

寒玉集

有安

難千載

勝余  
長作前日入道

山科集

惠光  
房殿  
已誦宗延

三升集

員辰

山月集

經因

荆籍春苑集

芝雷

閑林抄

新塚

百部抄

親盛  
大和前司

寶物集

康執

可六人十八番

覺登

大原集

時信

明月集

宋曰信眼

玉苑集

後頁

日下記

蘇雅集

類用

回春抄

知言集

慶昇信眼

古語拾遺

缺了廣成  
大日元年

平語抄

雅義抄

類聚

神中

二十卷  
成昭









